

白石市の未来を支える手仕事。卒園生たちが故郷の保育施設を守る「補修ボランティア」 —宮城県沖地震をきっかけに 40 年以上続く地域の安全活動—

白石市建設職組合青年部は、令和 7 年 10 月 26 日（日）に、市内の保育園・児童館を対象とした補修ボランティア活動を実施します。園の卒園生でもある職人たちが中心となり、「自分たちを育ててくれた場所を、自らの手で守る」という想いを胸に活動しています。

■ 主な活動内容

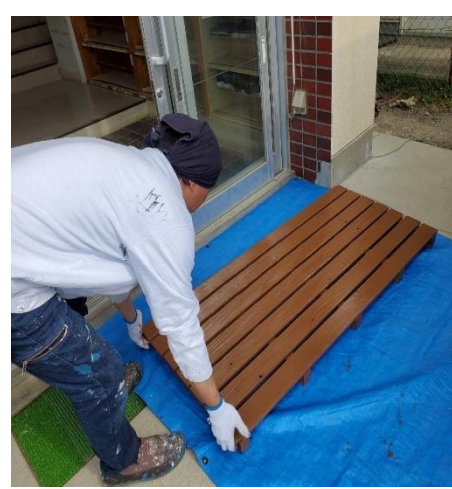
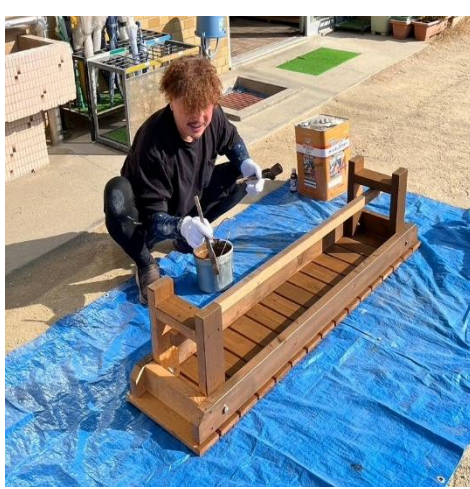
白石市内にある 2 つの児童館と 3 つの保育所について、毎年およそ 30 名の規模で実施されています。

活動の中心は、各施設の危険箇所を調査し、ボランティアで対応可能な範囲で修繕を行っています。先生方だけでは手が回らない部分を支援することで、子どもたちが安全に過ごせる環境づくりに貢献しています。



日常の修繕・安全対策の強化

子どもたちの安全に関わる箇所の緊急度の高い修繕を優先的に行っています。



遊具・備品の再生と寄贈

老朽化した屋外の木製ベンチを電動グラインダーで研磨し、防腐・防水ペンキを塗布して再生。
また、すのこやベンチなどの備品を新規に製作・寄贈し、施設環境の向上に貢献しています。

■ 活動の背景と目的

活動が始まったのは、宮城県沖地震で地域施設の老朽化や安全性が問題となったことがきっかけでした。

以来、子どもたちが安心して過ごせる環境を守るため、毎年、青年部員が保育園・児童館を訪問し、危険箇所の点検と簡易修繕を行っています。

当時、被災を経験した職人たちが「子どもたちの安全な環境を守りたい」という思いから始めたこの活動は、以来約40年にわたり、代々の青年部員によって引き継がれてきました。

■ 活動体制と行政との連携

毎年9月下旬から10月上旬にかけて、全参加予定施設に対して下見を実施しています。この下見により、必要な資材や作業内容、緊急度を確認し、限られた予算内で優先順位を決定。当日の活動をスムーズかつ効率的に進めるための重要なプロセスとなっています。

また、活動後には市長室にて市長と直接面談する機会を設け、下見で確認した施設の老朽化の深刻な現状を写真などで具体的に報告し、行政としての対策を要請しています。



山田裕一白石市長から感謝状を受け取る青年部員

■ 活動を通して伝えたい想い

活動を通して「施設や備品を大切に使う心」を子どもたちに伝えることを大切にしています。フェンスや遊具など、日々の遊びの中で傷みやすい場所もありますが、「みんなの場所を守る」という意識を少しでも育ててほしいという思いで活動を行っています。かつて自分たちが遊んだ場所を、次の世代の子どもたちが安全に過ごせるよう整えていく。その想いこそが、この活動を40年以上にわたって続けてこられた理由です。

地域の子どもたちの安全を守るという点で、大きな社会的責任と誇りを感じる一方で、多くの施設では建設から数十年が経過し、私たちの部分的な補修だけでは対応しきれない深刻な老朽化が進んでいます。今後も行政や地域と連携しながら、より持続的な安全環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

■ 報道関係者の皆さまへ

当日は、市内複数の保育施設で修繕作業を実施します。

現場では、若手職人とOBが協力して作業を進める姿や先生方との交流の様子もご取材いただけます。

地域と職人の絆が生きる現場を、ぜひ取材ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

[担当者名]

[電話番号]

参考リンク

